

世界経済は金融引き締めに耐えられるか

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 急速に減速基調を強める世界経済

世界的な金融引き締めが加速するなか、世界経済の先行きへの懸念が強まっています。8月の世界の製造業PMIは50.3となり、2020年6月以来の水準まで低下したほか、世界の景気敏感国の側面がある韓国や台湾の同PMIは好不況の分かれ目の50を下回るなど、世界経済の先行き不透明感が強まっている状況といえます（右上図）。

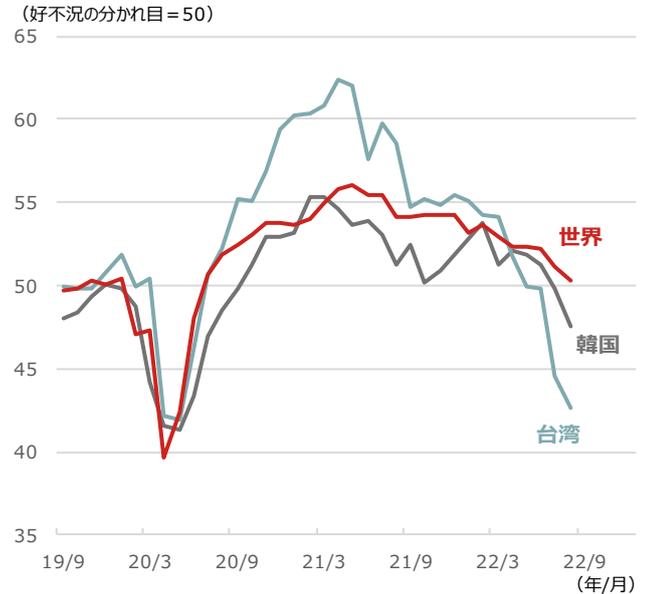
韓国統計庁が発表している半導体関連製品在庫は、統計を開始した2005年1月以降で最高水準にまで積み上がっています。電子機器（スマホ・PC等）や自動車など幅広い製品に使用される同製品の在庫増は、世界経済が急速に減速基調を強めていることを示していると考えられます。

ポイント② G7政策金利合計値は大幅上昇へ

こうした背景には、世界の中央銀行がインフレを抑制すべく急速な利上げを行なっていることがあります。現在のG7の政策金利合計値（8.15%）はすでに前回利上げ局面のピーク水準（4.9%）を大きく上回っています（右下図）。今後、来年半ばにかけて米国が1.6%、ユーロ圏が2.3%、英国が2.8%、カナダが1.7%程度の利上げを実施すると金融市場で見込まれており、合計13%（ユーロ圏：独、仏、伊3カ国×2.3% = 6.9%で試算）程、政策金利が引き上げられる見通しです。

過度な金融引き締めはこれまでも市場の混乱を引き起こしてきた経緯もあり、G7をはじめとした先進国株への逆風が続く可能性があります（右下図）。当面は各国・地域のインフレ鈍化によって、金融引き締めに関する市場予想が軟化するなど、潮目の変化が訪れるかが焦点となりそうです。

世界と韓国・台湾の製造業PMI（購買担当者景気指数）



期間：2019年9月～2022年8月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

先進国株とG7（先進7カ国）政策金利合計値



期間：（先進国株）2003年1月末～2022年9月5日、月次
（G7政策金利合計値）2003年1月末～2022年8月末、月次
・先進国株：MSCI World Index、米ドルベース
・G7政策金利合計値：米国、ユーロ圏（ドイツ、フランス、イタリア）、日本、英国、カナダの政策金利合計値
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。